

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
共同プロジェクト研究
2022年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名	
	異文化コミュニケーション学部・教授		イ・ヒャンジン	
研究課題	グローバル・スタディーズとしてのコリアン・スタディーズ—文化交流と人の移動を軸に			
研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2023年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名	
	研究代表者 立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		イ・ヒャンジン	
	研究分担者 立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		浜崎桂子	
	立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		武田珂代子	
	立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授		河合優子	
立教大学・文学部・兼任講師		金智英		
全研究期間	2021年度		～	2023年度
研究経費※ (上段:支出金額) (下段:採択金額)	2021年度	2022年度	2023年度	総計
	2,600,000 円	1,644,044 円	0,000,000 円	4,244,044 円
	2,600,000	1,700,000	1,700,000	6,000,000

※1円単位で記入

研究の概要(200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクトの目的は、欧米、アジアなど世界の多様な地域における関連研究、そして日本研究及びアジア研究との連携を図りつつ、日本におけるコリアン・スタディーズの拠点を確立すると同時に、グローバルな連携を強化することである。この研究では、トランスナショナルな視点から韓国の多種多様な動向への関心に答えつつ、グローバルな連携を強化した日本における新たな韓国・朝鮮に関連する研究(以下、コリアン・スタディーズとする)の展開を目指す。さらに、共同研究の成果を教育プログラムの開発に応用できるようにし、現代性、学際性、グローバルな通用性をもつ新たなコリアン・スタディーズの教育プログラムの開発を推進する。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[コリアン・スタディーズ] [文化交流] [学際性]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本共同研究が目指す「現代韓国の社会・文化・メディアに焦点化した研究拠点」を構築するための第一ステップは「テーマ研究の推進」である。本プロジェクトには、異文化コミュニケーション学、メディア研究、カルチュラルスタディーズ、翻訳通訳研究、比較文学などといった多様な学問分野からの研究者が参加している。共同研究者（研究協力者を含む）はそれぞれ多様な国際的ネットワークを築きながら研究に取り組んできており、「日韓」という二国間関係を越えて、より多様なグローバルなネットワークに属しながら、さまざまな形で韓国の研究者と交流を行ってきた。本プロジェクト研究申請時の研究計画では、共同研究者が、それぞれ有する国内外のネットワークを活用して、これまでには必ずしも「韓国・朝鮮研究」に関わっていないが、テーマとして、また比較対象としての「コリア」と向き合ってきた研究者との連携も図っていく予定だった。そこで、今年は、昨年にかけて各分野の韓国関連テーマ研究者を迎えて研究会を実施した。

【研究会】

第一回：2022年5月6日（金）

研究協力者：崔徳孝（チェ・ドッキョ）

所属：University of Sheffield

実施場所：Zoom ミーティング（オンラインで実施）

タイトル：朝鮮の脱植民地化と日本—在朝日本人の引揚げと植民地の記憶についての研究

発表内容：崔徳孝先生は現在、「ザイニチ朝鮮問題：米国占領下の日本と韓国の脱植民地化と冷戦、1945-1952年（藤谷隆編集したカリフォルニア大学出版局アジア太平洋モダンシリーズとの上級契約）と題した最初のモノグラフに取り組んでいる。崔徳孝先生の著書は米国が占領する日本と韓国の間の政治、社会運動、いわゆる「在日朝鮮問題」の国境を越えたつながりを探る。韓国、日本、米国の多言語および多くのアーカイブ研究に基づいて、解放後の韓国と戦後の日本の歴史を結びつける最初の研究である。こうした研究に基づいて今回の研究会では朝鮮の脱植民地化と日本—在朝日本人の引揚げと植民地の記憶についてお話していただいた。

第二回：2022年11月7日（月）

研究協力者：小林聡明（こばやし そうめい）

所属：日本大学法学部准教授

実施場所：Zoom ミーティング（オンラインで実施）

タイトル：朝鮮に関する知の形成とマッキューン夫妻—対日戦開戦前後アメリカの学术界と政策立案集団との関係について

発表内容：小林聡明先生の専門は東アジア国際政治史・メディア史、朝鮮半島地域研究である。主な著作に、『在日朝鮮人のメディア空間—GHQ 占領期における新聞発行とそのダイナミズム』（風響社、2007年）、「サンフランシスコ講和条約と感情—米軍政期／一九五〇年代初頭の韓国社会」（川島真・細谷雄一編『サンフランシスコ講和と東アジア』東京大学出版会、2022年）などがある。今回の研究会では今年11月に発刊された『文化冷戦と知の展開—アメリカの戦略・東アジアの論理』で先生が執筆した第4章「朝鮮に関する知の形成とマッキューン夫妻：対日戦開戦前後アメリカの学术界と政策立案集団との関係を中心に」について話をいただいた。

「論議会」2022年10月4日（火）

参加者：イ・ヒャンジン、浜崎桂子、武田珂代子、河合優子、金智英。

実施場所：立教大学マキムホール10階 第1会議室

タイトル：研究成果の出版のことについての研究会

議論内容：2022年度SFR共同研究成果の出版のことについて、出版社、編集者、各自担当分野などについての具体的な論議を行った。

第三回：2022年12月3日（土）

報告者：金智英（立教大学文学部兼任講師）

タイトル：日本における韓国文学の受容

実施場所：Zoom ミーティング（オンラインで実施）

発表内容：日本人が主体となって韓国文学に関わろうとした最初の同人雑誌は、1970年12月1日に発行された『朝鮮文学—紹介と研究』（朝鮮文学の会）である。それまで在日朝鮮人の研究者による

研究【経過・成果】の概要 (つづき)

研究が一般誌に掲載されることはごくわずかあったものの、「日本人主体のものは、まったくないっていいほどなかった」という。創刊メンバーは、大村益夫、梶井鱗、石川節、長聲善、山田明の5人だった。今回の研究会では、「朝鮮文学の会」を中心とした日本人の朝鮮近代文学研究がいかにか始まったかについて発表した。

第四回：2023年1月28日(土)

タイトル：個人研究報告会

発表内容：分担者5名とRA2名の研究内容報告

実施場所：立教大学13号館会議室

①朴健植：二人の偉大な独裁者(全斗煥と盧泰愚)の生涯—日本のメディアにおけるObituaryの研究の試みについて。

②高橋伸夫：朝鮮人「慰安婦」を映画のアイコンとして捉えて、映画『春婦伝』(鈴木清順、1965)においてどのように記憶化されていたのかについて。

③浜崎桂子：文学作品における「在日」の表象—「当事者性」を拡張することは可能か→文学作品は、果たしてどのようにEmpathyを生み出しうるのかについて。

④河合優子：近現代を扱った大河ドラマで、日本の朝鮮半島をはじめとするアジア地域に対する植民地支配はどのように忘却されているのかについて。

⑤武田珂代子：済々黷・熊本とコリアン・スタディーズ—なぜ済々黷で日本初の中等教育での朝鮮語教育が始まったのか、「日清戦争通訳官」「日露戦争通訳官」にはなぜ熊本県人が多かったのか、言語を学ぶ・学ばせる動機とは何だったのかについて。

⑥金智英：1970年に発行された『朝鮮文学—紹介と研究』(朝鮮文学の会)による「韓国文学研究の始まり」について。

⑦イヒャンジン：「表象の〈在日〉—映画・アイデンティティ・脱国家・境界性」と、ヤン・ヨンヒ監督の三部作—朝鮮学校と女性の声について

【国内の調査活動】

①2022年12月10~11日、愛知訪問、『詩人茨木のり子の会』の定例会参加、聞き取り調査と講演、茨木のり子関連地域見学など。(参加者：金智英)

②2023年1月21~22日、山梨訪問、『金子文子研究会』(聞き取り調査)鮎澤譲さんを含めた3名の『金子文子研究会』の会員の方に講師として、やまなし金子文子研究会の活動や金子文子の碑の設置に関してなどの講演をいただいた。(参加者：イ・ヒャンジン、浜崎桂子、河合優子、高橋伸夫、朴健植、金智英)

【国外の調査活動】

2022年10月5日~11日、韓国釜山国際映画祭参加。

立教SFR共同プロジェクト研究「グローバル・スタディーズとしてのコリアン・スタディーズ—文化交流と人の移動を軸に」の資料調査と打ち合わせのため。(日韓映画交流について)(参加者：イ・ヒャンジン)

2022年11月9日~15日、韓国/ソウル北朝鮮大学校大学院シンヨン研究所研究所訪問。

立教SRF研究「グローバル・スタディーズとしてのコリアン・スタディーズ—文化交流と人の移動を軸に」の資料調査と北朝鮮大学校大学院シンヨン研究所の会議参加・学术交流のため。(参加者：イ・ヒャンジン)

2023年2月9日~4月6日ドイツ・ベルリン自由大学訪問、ベルリン国際映画祭参加、韓国映像資料院訪問。

ベルリン：自由大学のグローバ・ファカルティー(客員教授)の招聘:講演

韓国：資料調査と出版社との協議(韓国ソウル)(参加者：イ・ヒャンジン)

2023年2月16日~26日：ベルリン国際映画祭への参加：資料調査とインタビュー(参加者：イ・ヒャンジン)

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

Hyangjin Lee, 2023 「パク・チャヌクの映画: 『オールド・ボーイ』から『別れる決心』まで」『ユリイカ』.
Hyangjin Lee, 2022 「『イカゲーム』の日本メディア批評-嫌悪と共感の韓国ドラマ論」『日本学報』131: 17-36.
Hyangjin Lee, 2022 「冷戦の境界を超えるポストナショナル-北朝鮮の国際合作ベンチャー (Breaking Boundary of the Cold War and the Post-National: North Korea's International Coproduction Ventures)」『JunCture 超域的日本文化研究』13:72-86.

②図書

Hyangjin Lee, 2023 『남과 북, 민족영화의 경계를 넘어』 (North and South, Crossing the Border of National Cinema), Seoul: Yonsei University Press (forthcoming).
Hyangjin Lee, 2023 'Memory Politics in North Korean Cinema: Nation and the Transnational.' In Zhang Zhen and all (eds.) *Routledge Companion to Asian Cinema*. Oxford: Routledge (forthcoming).
Hyangjin Lee, 2022 'Everyday Aesthetics and Feminist Criticism of Korean Wave Satirical Romance, *Clash Landing on You*.' 筑波大学出版会 『日常と文化』 252-265.

④その他

Hyangjin Lee, 'Korean Cinema with Hyangjin Lee 2022' (Annual Film Screening & Talk): North Korea's International Ventures, Free University of Berlin, Berlin, February 23-24.
Hyangjin Lee, 'Squid Game and Korean Satire Drama,' Invited Lecture, Kansai Productive Center, 24 November.
Hyangjin Lee, 'Netflix Korean drama, Crash Landing on You' Invited Lecture, Department of Asia and North Africa, Ca' Foscari University of Venice, Venice, March 11.
Hyangjin Lee, 'Global North Korea Cinema: Co-production and transnationality' Invited Lecture, Department of East Asian Language and Culture, Columbia University, May 2.
Hyangjin Lee, 'Korean Cinema with Hyangjin Lee 2023' (Annual Film Screening & Talk): Women, Transborder in the Divided Lenses, Free University of Berlin, Berlin, February 13-15.
武田珂代子、アジア研究協会年次大会 (ボストン)・口頭発表 "Korean interpreters from Kumamoto during the Russo-Japanese War: a local government's "study in Korea" program as a source of Japanese military interpreters" 2023年3月17日 (査読あり。熊本県朝鮮語学生事業と日露戦争通訳官に言及)
武田珂代子、韓国外国語大学通訳翻訳研究所オンラインコンファレンス・基調講演 "How do we Evaluate Translation Policy?" 2023年1月27日 (招待あり。文化庁と韓国文学翻訳院の事業を比較分析)
Takeda, K. (2022). Words Matter, Translation Matters. *The Second World War in Asia: War Memory, Commemoration, and Reparations*. 国立シンガポール大学法学部オンラインブログシンポジウム (招待あり。慰安婦・徴用工に関する翻訳の問題に言及)
金智英、「脱境界の詩人・茨木のり子」北海道大学東アジアメディア研究センター2022年度日韓連帯市民講座、2022年8月5日。
金智英、「茨木のり子と韓国」、コリアを知らう!の会・講演、2022年10月22日。
金智英、「茨木のり子」朝日カルチャーセンター新宿講座、2022年10月29日。
金智英、「茨木のり子と韓国」詩人茨木のり子の会12月定例会特別記念講演、2022年12月11日。(『詩人茨木のり子の会会報』59:1-3。他同会報第56号、60号に尹東柱・茨木のり子のふるさと西尾に関するコラム掲載)